

# 画家・森田恒友の表現展

～ごあいさつ～

私たちの郷土熊谷は、中央画壇で活躍する多くの画家を輩してきた街ですが、中でも洋画・日本画の双方で名を馳せた森田恒友は、日本絵画史に名を遺すほどの活躍を遂げた人物です。

恒友は明治14年に大里郡玉井村（現熊谷市）に生まれました。20歳の時に画家を志して上京、東京美術学校（現東京芸大）西洋画科専科に入学、青木繁を中心に熊谷守一、坂本繁二郎らと“青木グループ”を結成、画力を研鑽しました。首席で卒業後、石井柏亭、山本鼎と三人で美術芸雑誌『方寸』を創刊、第一回文展に「湖畔」を出品・入選するなど、精力的に活動しました。

大正3年4月に渡欧。ロンドンから南仏、イタリア、スペインを旅行し、後期印象派の代表的な画家、ポール・セザンヌの影響を強く受けます。帰国後は、二科会会員、日本美術院洋画部同人となりますが、9年に日本美術院洋画部を脱退、以後、油彩画の制作から主に水墨画や素描の作品を発表するようになります。そして、大正11年、41

歳のときに、小杉放菴らとともに春陽会を設立、我が国の近代美術界に大きな影響を与えました。昭和4年には、帝国美術学校（現、武蔵野美術大学・多摩美術大学）の創立にあたって洋画科主任教授に着任、後進の指導にあたるなど、ますますの活躍を期待されましたが、昭和8年、52歳の若さで亡くなりました。

今回展は、一昨年に恒友の本家筋にあたる森田賢太郎氏からご寄贈、ご寄託いただいている作品を中心に展示いたします。東京美術学校在学頃の作品や熊谷市指定文化財の作品まで、洋画家・森田恒友の作品の歩みをご覧くださいとともに、その確かなデッサン力で捉えられた対象の表現を感じていただければと思います。

最後に、今回展の開催にあたり多くの作品をご寄贈、ご寄託いただいております森田賢太郎氏とご家族の皆様には厚くお礼申しあげ、開催のご挨拶といたします。



すき髪 明治38年 熊谷市指定文化財



尾瀬沼 昭和7年 熊谷市指定文化財

## 会期：平成30年6月28日(木)～9月9日(日)

[休館日：毎週月曜日（祝日を除く）、7/6、7/17、8/3、9/7]

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室

時間：午前9時～午後5時 入場無料



海岸 明治39年



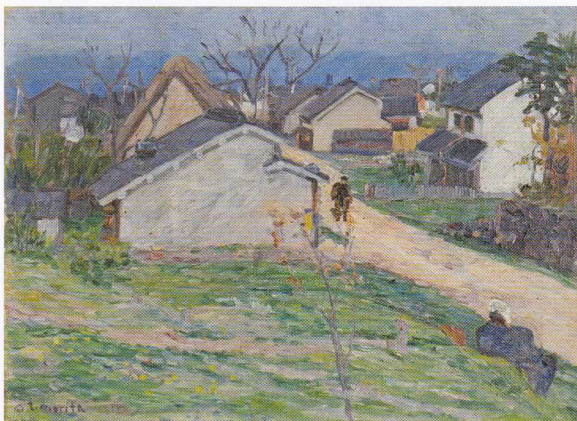
少女 明治36年頃



緩流 大正6年 第4回再興院展



伊豆の海小屋 明治39年



郊外 明治45年



レンゲツツジ 大正10年

※このチラシは、2,000枚制作し、制作費用は1枚あたり12.8円です。